



# 朝一小だより

活気があふれ、心が躍り、一人一人がより良く生きる学校 789

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校  
 令和5年12月1日  
 児童数 583名



## 情報化と子供たちの未来

校長 金子 二郎

霜月も半ば過ぎ頃から、どこかで迷子になっていたかのような寒さが思い出したように駆け足でやってきました。最近、春と秋が極端に短くなり、夏と冬ばかりになったのではという向きもあります。師走を迎え、日の入りの速さにも冬の訪れが感じられるようになりました。学校では風邪気味の児童も気になります。保護者や地域の皆様におかれましてもお体をご自愛いただければと存じます。



さて、すでに社会の情報化が進み、おびただしい量の情報が飛び交う時代となりました。その中では正



確なものをどれだけ速く多く受けとるかが、その人の幸福につながってくると考えられています。確かに情報が不足していたり、間違ったことを信じていたりすることによって損をすることがあるため、多くの人が情報を速くたくさん受けとる便利な方法を求め苦勞しているのが現状です。しかし、情報以外にも人間にとって大切なものがあるはずで

す。先月21日、本校では朝霞市教育委員会の委嘱による研究発表会を開催しました。これまでも一小ではタブレット端末を児童も文房具のように当たり前



前に使う学習活動をイメージして授業の実践を重ねてきています。当日、披露した授業でも学年の別を問わず、児童は観察、記録、情報収集、表現のツールとして自在に活用し、協働的に学びあう様子が見られました。Z世代にとって大量の情報を速く的確に整理することのハードルは高くないようです。大人の世界でも「タイパ」「コスパ」が当たり前となりました。1.5倍速で動画を視て、手にしたものを短時間でフリマサイトに出品するのが特別なことではなくなりつつあります。ただ、他に先んじて情報を獲得し少しでも多くの対価を手に入れることが、本当に誰にとっても幸せな生活をもたらしてくれるのでしょうか。現時点で社会はあらゆるものがデジタルなデータに置き換えられる段階には至っていません。もちろん ICT 機器を活用できるか否かは、未来を生きる子供たちにとって死活問題です。活用できることを前提に、今後もグローバルな社会が構築されていくことが確実だからです。



でも裏を返せば、便利なツールを当たり前のように使うことは「手段の一つ」であり、活用技術を身に付けること自体がゴールではありません。人は持てる五感を駆使し相手の意図を汲み取ろうとします。しかし全力で五感を以てしてでもお互いを分かり合えないことは往々にしてあります。データの共有のみでコミュニケーションを補完することには限界があるのではないのでしょうか。数値で測ることのできる情報のみに拘泥するのではなく、同じ空間を共有することで得られるいわば「心の揺れ」を大切にしなければならぬと強く思います。少なくとも学校では、間違っても個別最適な学びの充実が格差の拡大の一因とならぬように細心の注意を払いつつ、子供たちを育てていかなければならぬと感じました。

でも裏を返せば、便利なツールを当たり前のように使うことは「手段の一つ」であり、活用技術を身に付けること自体がゴールではありません。人は持てる五感を駆使し相手の意図を汲み取ろうとします。しかし全力で五感を以てしてでもお互いを分かり合えないことは往々にしてあります。データの共有のみでコミュニケーションを補完することには限界があるのではないのでしょうか。数値で測ることのできる情報のみに拘泥するのではなく、同じ空間を共有することで得られるいわば「心の揺れ」を大切にしなければならぬと強く思います。少なくとも学校では、間違っても個別最適な学びの充実が格差の拡大の一因とならぬように細心の注意を払いつつ、子供たちを育てていかなければならぬと感じました。



我々が見たいのは、知識を追い求める子供の姿であって、子供を追い回す知識ではない (ハーナド・ジョー)